

NSP通信が見た東日本大震災復興状況



第5号

2012.11月

NSP
株式会社 エヌエスピー
<http://www.kkns.jp>

東日本大震災から1年半が経過し、メディアでの取上げもだんだん少なくなってきたように感じます。

そこで、震災の復興状況を少しでもお伝えしたいと思い、宮城県を訪問しました。

仙台空港に到着して最初に訪れたのは、名取市閉上（ユリアゲ）地区。仙台空港に隣接し、津波が町を飲込んでいく光景がテレビで映し出された地区です。

旧市街地は津波で流されたガレキ等は既に撤去され、町のほぼ中央の小さな丘に建てられた慰霊碑のほかは何も無く、被害状況が実感できないのが正直な感想でした。ただ、海岸に建設されたガレキ焼却施設の騒がしさが被害の大きさを物語っているように見えました。

被災を免れた近くの病院で、この地区の震災前の航空写真を拝見しました。（下左写真）



震災前の閉上地区航空写真
赤丸部今回撮影(右写真)現場付近



閉上慰霊碑から見た海岸
奥に見えるのはガレキ焼却施設

この写真を見て改めて津波被害の状況が実感できたと同時に恐怖さえ憶えました。

一方、名取市内では災害公営住宅の整備が急ピッチで進められていました。

建設現場には九州、四国等他県ナンバーの工事車両が目立ち、地元業者だけでは工事が追いつかない状況がうかがえました。

災害公営住宅とは、自宅を失った被災者に対し、自治体が低

家賃で供給する住宅で、宮城・岩手・福島の3県で平成27年度までに約3万戸の建設が予定されています。



仮設住宅(写真手前)の奥では
新築住宅の建設が進む

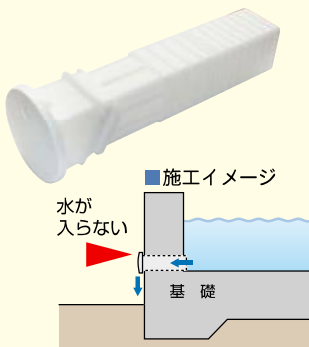
◆地震と震災（震災への備え）

日本は地震大国といわれています。日本列島のどこを次の地震が襲うかはわかりません。

「地震と震災は別もので、地震は自然現象であり、震災は社会現象」と提唱する人もいます。

自然現象を避ける方法はありませんが、震災（社会現象）は、備えあれば小さくも、また防ぐこともできるはずですよ。

当社では浸水被害から住宅被害を軽減する商品として、「床



下勝手に「ドレイン」を提案しています。

床上浸水が起きると、床の掃除や家具の搬出に追われます、床下にたつぷり溜まった水は一息ついた後に排出されます。この作業は簡単な仕事ではありません。また、床下に汚水が浸入していると悪臭のみならず、伝染病を引き起こす要因にもなります。

そんな事態に備え、新築基礎工事の段階に「床下勝手にドレイン」をセットしておけば、床上浸水時でも外の水が引いたら床下の水が自然排出されます。

「万事に備え、勝手にドレインを装備しておいたが、その必要はなかった」20年後、30年後にそう思っ頂きたいものです。

◆ぎふ清流国体開催

第67回国民体育大会が9月29日～10月15日の間、岐阜県で開催されました。

「輝け、はばたけ、誰もが主役をひとつに日本再生」東日本



大震災の復興支援をテーマに開かれた大会には、選手ら2万人以上が参加しました。

大会期間中、岐阜メモリアルセンターの芝生広場では、「清流ミナモ広場」が開設され、県産品を使ったグルメや土産物、国体の大会グッズの販売など、岐阜県の魅力が発信され、会場は大いに賑わいました。

来年は東京で開催されます。国体盛況もさる事ながら2020年のオリンピック招致の成功も祈願いたします。



清流ミナモ広場
当社商品「樹脂ステップ」が敷設されています

◆SES・KSK社名変更について

当社のグループ会社である(株)SES、(株)KSKが、平成24年10月1日より社名を変更致しました。新社名は、

(株)NSP SS(旧社名 (株)SES)、
(株)NSP KS(旧社名 (株)KSK)
これを機に社員一同新たな決意をもって鋭意努力いたす所存でございます。

今後とも倍旧のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



私が訪れた宮城県の自治体では、津波で破壊された処理場の復旧には目処が付き、地震による液状化現象で浮き上がった人孔の補修工事もほぼ終わり、現在は、継手部分で折れ曲がった埋設管の入換え工事を行っている現場を視察してきました。

下水道は、自然流下方式で処理場まで流して行きますので、途中で管が沈下したり、隆起したところがあると汚物が滞留しますが、管が繋がっていれば、上澄み水は流れますので、人孔から水が溢れ出すようなことは無いようです。

今回視察した地区は、元々地下水の多い地区で、下水管を新設したときにもウエルポイントを設置するなど施工に苦労したようです。

一度埋設したところを掘り返し、不具合箇所の管を撤去し、

東日本大震災
復興への道
〈ライフライン編〉



新しい管を設置するのに、当社の「パイプサポート」を至る所でご利用頂いていました。

施工業者さんにお話しを伺うと、供用中の下水道を一旦止めて工事をする事から、早く正確に管を埋設しなければならなく、水の多い現場では、パイプサポートを使用することで、管の浮き上がりを心配する必要がなく、勾配調整や通りの修正が早くでき本当に重宝しているとのことでした。



災害復旧に関する工事は、下水道工事だけではないため、施工業者さんが不足しており、他県から応援で駆けつけて頂いた業者さんも数多くお見かけしました。

今回、現地取材に快くご協力頂いた方々に感謝し一日も早い復興を願い現場を後にしました。

取材・記事 長尾・井口

〈エネルギー源としてのLNGの役割とガスバイプライン網〉

NSP通信第3号で、「水のインフラ」について触れましたので、今回は「電気とガス」に

ついて取り上げようと思います。東日本大震災の被害で仙台市ガス局のLNG（液化天然ガス）輸入基地が津波被害を受け、復旧に1年近くかかるとみられていましたが、新潟県のLNG輸入基地とガスバイプラインで結ばれていたため、1カ月余りで供給を再開することができました。LNGは、都市部では家庭用の都市ガスとして利用されますが、火力発電所のエネルギー源としての約半数がLNGで賄われています。



ガスバイプラインは、家庭用のガスの復旧だけでなく、電気の早期復旧にも寄与したことになります。

また、昨今の原子力発電所の再稼働問題などで、LNGによる火力発電の重要性も見直されており、LNGの需要は今後も増加する傾向にあります。

パイプラインの現在の状況は、各地の都市ガス事業者が、個別にLNGを受け入れており、大都市間や需要が点在するエリアでのパイプライン整備は一向に進んでいませんでした。まさに「点と途切れた線のパイプライン」の状況です。



そこで、経済産業省の専門委員会が開かれ、災害に備えて天然ガスを広域に供給できる基幹パイプライン網を敷設するため、国主導で「整備基本方針」を策定することを盛り込んだ報告書案が提示されました。この報告書案には、4つの「仮想ルート」を含む総延長1615キロの工事と、整備・施設建設費で計約1兆6900億〜1兆9600億円が試算が盛り込まれています。

今夏にまとめられたエネルギー基本計画では、この報告書案の内容が反映されました。

当社としては、ガスバイプラインに使用する鋼管が1本あたり12mと長く、また、取扱いも非常にデリケートであることから、施工性の向上を目的として、水圧スイング式土留を開発し、また、現場の安全性に十分考慮した幅木付きフェンスなどを現場に投入していく予定です。



水圧スイング式土留 (GPL土留)

◆たまには、休みましょう。

最近共感した言葉、それは、「人間は時々、努めて頭を空っぽにしなければ駄目だ。ON」と「OFF」のメリハリをつけて、定期的に頭の中をリフレッシュさせよう。」です。

ゆっくり休むのは難しい。それが後々ストレスや効率面で影響を及ぼす事になるかもしれない。

趣味をみつけストレス発散したり、リフレッシュして休める時間を作るよう心掛けてはいかがでしょうか。

沖縄営業所 比嘉 重之